STROKE LAB / CLINICAL WORKSHEET

BBT｜手順と左右の記録

Box and Block Test / 個数で捉え、動作と生活へつなぐ

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

年齢：____歳 発症前利き手：□右 □左 麻痺・障害側：□右 □左 □両側

実施順：①____手 → ②____手 用具／座位条件：_____

01　実施の流れ

専用箱の測定側区画に2.5cm角のブロック150個を用意。箱を正面に置き、検者は対面で観察。利き手から行う原手順など、採用した順番を上欄へ記録。

3個で実演 → 両手を箱の側面へ → 15秒練習 → ブロックを戻す → 準備の合図から約3秒で開始 → 60秒測定 → 個数を記録。反対の手も練習から行う。

02　採点でそろえる条件

・1個ずつ運び、指先も仕切りを越えてから離す。

・複数個の同時運搬は1個。余分な個数を差し引く。

・指先が仕切りを越えない投げ入れは数えない。

・正しく越えた後に机・床へ出たブロックは数える。拾わせない。

記録項目	右手	左手
60秒を完了	□はい □いいえ	□はい □いいえ
A 受け側に残った個数	_____ 個	_____ 個
B A内の複数同時運搬の余分	_____ 個	_____ 個
C A内の指先未通過による無効	_____ 個	_____ 個
D 箱外へ出た有効な個数	_____ 個	_____ 個
最終得点 A − B − C ＋ D	_____ 個／分	_____ 個／分

短時間で中止した場合は1分へ換算せず、実施秒数と理由を記録。BとCは重複計上しない。練習で運んだ個数は本測定に含めない。

中止・無効運搬・痛み・疲労・条件変更／補足

原資料：Mathiowetz提供の手順・記録用紙（クリックで開く）

STROKE LAB / CLINICAL WORKSHEET

BBT｜変化と生活への応用

Box and Block Test / 個数で捉え、動作と生活へつなぐ

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

01　再評価との比較（同じ条件かを確認）

前回日：_____ 右：____個／分 左：____個／分

今回との差　右：____個／分　左：____個／分　条件：□同じ □変更あり

02　どの段階に時間がかかったか／前回からの変化

□届く □つかむ □運ぶ □離す □次へ戻る □後半の減速

03　動作の事実（肩・肘・手指・体幹／感覚・視線／痛み・疲労）

04　生活目標と具体的な作業（道具・時間・介助量・本人の感想）

05　次の介入と再評価（練習条件と標準測定条件を区別）

解釈メモ：脳卒中で報告されたMDC 5.5個／分は、生活自立のカットオフではありません。重度例の床効果や重症度による違いも踏まえ、他の運動評価・生活観察を併用します。

参考：Mathiowetz et al., 1985 / Chen et al., 2009 / Aaby et al., 2026

成人基準値・原著（原文を開く）

再検査研究（原文を開く）

2026年：変化量・床効果（原文を開く）

実施・採点の詳細は原資料をご確認ください。臨床観察欄は追加記録です。